

## 事業完了（廃止等）報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	令和2年6月9日 ～ 令和3年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》</p> <p>I 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母語を日本語としない生徒への日本語指導を踏まえた教科指導法と授業の展開方法全般について</li> </ul> <p>IV 教職員の配置・研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間学級専門スタッフを活用した教育活動の在り方について</li> </ul>
調査研究のねらい	<p>多国籍生徒が在籍し、日本語の習熟度や既習状況が異なる中で、教科指導の在り方は、依然として大きな課題である。夜間学級の教育活動をさらに充実させ、多様な生徒の受け入れの拡大が図れるよう生徒一人一人の個に応じた効果的な指導方法の調査研究をねらいとする。</p> <p>あわせて、生徒の実態に合わせた指導をサポートする夜間学級専門スタッフを活用した教育活動及び効果的な活用について、昨年度に引き続き研究する。</p>
調査研究の成果	<p>Iについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の個に応じた効果的な指導方法や教材づくりを、行った。</li> </ul> <p>IVについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導は、主に国語や始業前の学習相談時間に行い、個々の生徒の様子に応じて教材を提示して行った。</li> <li>・国語以外の各教科指導において、教科の特色を生かして効果的な日本語が習得できるように工夫を行った。</li> <li>・夜間学級専門スタッフによる生徒の実態に合う教育活動・支援については、教育課程を推進していく上で、教科指導と日本語指導が重要となる。そのため、日本語習得レベルに応じた学習支援を進められるようにサポートをした。本務教員6名、講師7名（夜間スタッフ含む）、養護教諭1名で個々の生徒にきめ細かく対応できるようにT.T体制で行っているが、専門性（日本語指導や英語）を生かしたサポートであったので、学習支援だけではなく、生徒の教育相談のサポートも円滑に進めることができた場面が多くあった。生徒の日本語や教科学習の理解を進めることもでき、夜間学級専門スタッフの配置はとても効果的であった。</li> </ul>

## 【本年度の取組】

### (1) 教員研修

#### ・ 6月

本校、夜間学級で本務教員として長く教鞭をとられ、現在本校夜間学級会計年度任用職員を講師として、日本語指導の進め方についての研修会を行った。実際に本校の現状を踏まえての実践で行える内容であったため、一つ一つ確認しながら理解を深めることができた。

#### ・ 10月

行政書士の方を講師に迎え、「来日する外国籍の生徒と現状」について全国、県、市川市の状況を踏まえながら、外国人の在留状況・在留管理制度・在留資格の基礎事項、在留外国人の義務等とともに、在留外国人が直面する課題や学習・生活指導、また在籍する生徒に関する在留管理制度における注意点などについての理解を深めた。

### (2) 授業実践

本校夜間学級では、日本語学級は設置していない。各教科指導の中で教科の特色を生かして効果的に日本語指導を織り交ぜながら授業展開をしている。

① 自作の教材を作成するにあたり、漢字にルビをふり日本語を分かりやすくする。

▶ 数学では、習熟度別3クラス(各学級2～4名のTT体制)のきめ細かな授業を展開。習熟度クラスの実態に合わせて研究授業を行った。用語の理解にルビ・英語を補助的に使って「ことば」を正しく言えるようにした。

② 視覚で対応できる授業(理科の実験、パワーポイント、日本語教材など)から理解を深める実践を展開した。

▶ パワーポイントを活用した授業。

▶ 理科の授業では、「密度」をテーマに実験を含めた一斉授業の展開・研究授業を行った。実験を進めていく中で、ある個体物質の密度を測り、その物質名を調べる実験をした。実験などの説明は、使用する道具を使い、具体的に行った。また、ワークシート(英語表記含む)を用意し、見通しを持てるようにした。

③ ワークシートに英語表記や日本語を書く活動により理解を深められようにした。

- ▶ 社会では、日本の地形などの説明文の単語に英語表記をしたり、地図記号の学習では、地図記号 - 英語 - 漢字 - ( ) という流れで、括弧には、ひらがなで地図記号の意味を書くようにしたりした。

#### (3) 夜間学級養護教諭の役割～他校との情報交換～

今年度、夜間学級に養護教諭が配置された。千葉県内に同時に養護教諭が配置された松戸市立第一中学校みらい分校と、近県、東京都の学校と情報を交換しながら養護教諭の役割について考え、進めてきた。特に保健室設置に向けては、どの場所に設置するか、どのような設備があるかなど、養護教諭が配置されている関西の夜間学級からも情報を得た。年度末に保健室が完成し、まだ運用を報告するまでには活用できていないので、今後、よりよい活用方法などを考えていきたい。また、検診の進め方、保護者への通知などの情報などについても情報を交換し、本市教育委員会保健体育課とも相談しながら進めてきた。生徒や保護者へ健康管理や検診の結果通知の内容等を伝えるために、保健だよりの発行や廊下の掲示物を工夫した。

#### (4) まとめ

終業式の生徒代表の言葉や文集の内容から、授業や学校生活に対して充実し、満足している様子が読み取れる。生徒個々の様子に合わせた授業が行えているということに繋がっていると考えられる。外国籍の多い本校において、学ぶことの基礎が日本語の習得であることが主になっていることから、日本語の理解と教科内容の理解を促せるように授業を工夫することで、学習意欲が高まった。

本務教員6名、講師7名（夜間スタッフ含む）、養護教諭1名で、生徒の実態に合った特別の教育課程を実施している個々の生徒に細かく対応できるよう IT 体制を組み、習熟度に応じたグループ編成の授業を行っている。

日本に来て間もない生徒も多く、様々な問題を抱えるケースもあり、日本語の支援だけでなく、各国の生活習慣等を理解した上での学習や生活に対する支援を行うことができた。夜間学級専門スタッフの配置はとても効果的であった。